

## 低気温でも一般用プロパン需要伸びず ～7月LPガス需給実績（5日集計）～

日本LPガス協会が29日にとりまとめた「LPガス需給統計」（5日集計）によると、7月のLPガス需要（元売出荷ベース）は前年同月比8.6%減の956千トにとどまった。2カ月連続の前年割れ。7月は低気温だったにもかかわらず、プロパン需要が前月に続いて低迷したことが響いた。これに対して供給は、輸入が比較的高水準で104万トと100万トを超えた。この結果、7月末の一次基地在庫は月間84千ト増加の1,526千ト、前年同月末比110.9%となった。うちランニング在庫は459千トで同175.2%と非常に高水準となった。日本勢の在庫高がスポット輸入手当てを低調にしており、極東CFR市況の下落につながった。

1. <生産>7月の国内LPガス生産量は、石油精製分が前月比29千ト増、前年同月比18.0%減の173千ト、石油化学分が前月比5千ト増、前年同月比35.7%増の38千トとなった。7月の原油処理量（精製業者分）は前月比8.3%増、前年同月比1.2%増の1,488万k1と前月比石油製品需要の増加（前年同月比では3.5%減）と定修が少なかったことを反映して前年同月をも上回った。ただ、製油所でのLPガス自家消費は高水準で、LPガス統計に示される精製分生産＝市場への出荷量は減少した。また、石油化学での生産は、エチレン生産量が517千トで前月比4.4%増、前年同月比4.2%増となった。7月の50万ト超は2年ぶり。エチレンプラントの定修は1社1プラント。前月は2社2プラント、前年同月は1社1プラントだった。しかし、ここでも原油高・ナフサ高を反映してLPガス原燃料用自家消費が増加したことで前月に比べて市場出荷量（生産量）は5千ト増にとどまったもの。

2. <輸入> 輸入は829千トで前月比20千ト減、前年同月比では9.1%（69千ト）増の829千トとなった。超低水準だった昨年に比べると増加したが、2016年、2017年の988千ト、935千トに比べると低調だった。これは元売各社の在庫高からスポット輸入が手控えられたためだ。米国積みのプロパンカーゴは潤沢に極東市場に入着を続けているが、日本勢や同じく在庫高の韓国勢が市場から玉を買わないため、プロパンはジャブジャブ。極東CFR市況が大きく下げる要因となった（中国勢は米国産の輸入が高関税でできないため中東産に全面シフト。日本CFR市況よりも中国CFRが20～30ドルも高くなっている）。

7月の国別輸入状況は、米国（一部カナダを含む）が552千ト、オーストラリア112千ト、アブダビ101千ト、バーレーン37千ト、クウェート16千ト、カタールが12千トで、サウジアラビアからの輸入は前月に続いてゼロだった。米国からの輸入比率は66.6%。なおプロパンに限ると649千ト輸入のうち米国が527千トで81.2%となっている。サウジ離れ・米国一辺倒の輸入状況が続く。ターム契約による輸入はこれほどないが、今や米国のプロパン輸出は年間3,300万ト超ペースとなっており、アジア・極東地域には米国カーゴがどんどん流入、勢いトレーディングによる米国玉の輸入は高比率となる。

3. <総需要と一般用需要>7月のLPガストータル需要は、プロパンが前年同月比11.0%減の712千ト、ブタンが同0.8%減の244千ト、合計で同8.6%減の956千トとなった。プロパンのマイナスは3か月続き。ブタンのマイナスは4か月ぶり。一般用需要に限ると、プロパンが7.4%減の700千ト、ブタンが3.6%増の201千ト、合計が5.2%減の901千ト。7月は6月までとは打って変わって平年に比べて気温が低くなった。北日本こそ平年比0.9℃高だったが、東日本は同0.3℃低、西日本が同0.5℃低。本州南岸に梅雨前線が長期に張り付いたことが原因だ。ちなみに、東京の気温は前年比4.2℃低、平年比2.8℃低の「寒い7月」だった。しかし、省エネ機器の普及や家庭での節エネによる需要低迷が明確に現れたようで家庭用プロパン需要は低調だった。ブタンの増加は、都市ガスにおける商業用需要の増加が寄与したほか、LPガスGHPの増加も影響したもよう。ちなみに、4~6月のLPガスGHP出荷台数は前年同期比48%増の2,330台、馬力数にして同62%増の46.7馬力と大幅に伸びている。

4. <輸入船直納需要> 鉄鋼用の受入れはゼロだったが、化学原料用はブタン受入れが続き23千ト（昨年7月はブタン30千ト）、電力用がプロパン12千ト、ブタン20千トの計32千トとなった（前年7月はプロパン44千ト）。直納需要合計ではプロパン12千ト、ブタン43千トの計55千ト（前年7月96千ト）。

5. <在庫> 以上のような需給の結果、7月末の一次基地在庫は6月末比84千ト増の1,526千トとなった。昨年7月末比110.9%。うちランニング在庫は459千トで6月末比197千ト増、前年同月末比175.2%の高水準。プロパンランニング在庫だけみると、前年同月末比2倍以上の超高水準在庫だ。スポット買いは低調にならざるを得ない。7月末法定備蓄量は1,067千ト。2月から民間備蓄日数が50日分から40日分に軽減されている。

7月のLPガス需給実績は次のとおり（単位・千トン、カッコ内は前年比%）。

	プロパン	ブタン	合計
月初在庫	963	479	1,442
	( 102.0)	( 100.0)	( 101.3)
ランニング分	206	137	343
	( 106.2)	( 113.2)	( 108.9)
法定備蓄	757	342	1,099
<供給>			
石油精製分生産	97	76	173
	( 87.4)	( 76.0)	( 82.0)
石油化学分生産	23	15	38
	( 115.0)	( 187.5)	( 135.7)
輸入	649	180	829
	( 107.8)	( 113.9)	( 109.1)
供給計	769	271	1,040
	( 104.9)	( 101.9)	( 104.1)
<出荷>			
一般用	700	201	901
	( 92.6)	( 103.6)	( 94.8)
鉄鋼用	0	0	0
	( -- )	( -- )	( -- )
化学原料用	0	23	23
	( -- )	( 76.7)	( 76.7)
電力用	12	20	32
	( 27.3)	( -- )	( 72.7)
輸入船直納計	12	43	55
	( 27.3)	( 82.7)	( 57.3)
出荷計	712	244	956
	( 89.0)	( 99.2)	( 91.4)
<在庫>			
月末在庫	1,020	506	1,526
	( 116.3)	( 101.4)	( 110.9)
ランニング分	285	174	459
	( 202.1)	( 143.8)	( 175.2)
法定備蓄	735	332	1,067

(注) 在庫は一次基地在庫